

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
 熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105
 TEL 096-285-7761
 FAX 096-285-7762
 E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp
 URL http://kumacsw.com/



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくまもと

Certified Social Worker



発行責任者 梅田 孝子
 編集責任者 田上 緒
 発行月 2024年12月

第81号

ソーシャルワーカーデー(P1) ハンセン病講演会(P5)
 能登半島地震支援活動(P2) 受験対策講座(P6)
 新規合格者のつどい(P3) ぼうさいこくたい(P7)
 熊本市東・益城ブロック研修(P4) インフォメーション(P8)

ソーシャルワーカーってどんな人？

ソーシャルワーカーデー in くまもと 開催



全体会の様子

11月16日、熊本学園大学にて、熊本県社会福祉士会、熊本県医療ソーシャルワーカー協会、熊本県精神保健福祉士協会の共催で「ソーシャルワーカーデー in くまもと」が開催されました。今回は熊本学園大学、九州看護福祉大学、九州ルーテル学院大学、そして高校生が参加し、約40名の学生が集まりました。

全体説明会では、各団体の代表者がそれぞれの活動内容やソーシャルワーカーの役割について紹介し、学生たちに「ソーシャルワーカーとは何か」を理解する機会が提供されました。特に社会福祉士会の深谷前会長によるソーシャルワークに関する説明は、参加者にとって非常に心に残るものでした。

その後、各団体に分かれての個別相談会が実施され、学生たちは進路や実習先選び、ソーシャルワーカーとしての具体的な業務内容などについて直接質問することができました。

今回のイベントでは、現役のソーシャルワーカーによる実際の業務の体験談など、学生たちにとって非常に有益な情報が提供されました。参加者からは「進路選択の参考になった」「具体的な業務内容を知ることができて良かった」という声が多く寄せられました。

質疑応答では学生から熱心な質問が相次ぎ、予定時間を30分延長するほどの盛況ぶりでした。質問に答える側も責任重大で緊張しましたが、無事に終えることができました。

今回のイベントを通じて、ソーシャルワーカーを目指す学生たちは、将来の目標に向けて大きな一歩を踏み出すことができたのではないのでしょうか。

来年もこのような機会を増やし、学生たちの成長をサポートしていきたいと思えます。

(広報委員会 魚谷)



個別相談会の様子

みなし仮設住宅入居世帯への訪問を実施 能登半島地震支援活動 報告

災害支援活動者 濱 陽子



10月14日～18日、金沢市のみなし仮設にお住まいの方の訪問支援に行ってきました。能登半島のために何ができるか、大きなことはできないけど、訪問ならできるかと思って参加しました。

10月現在で、約1400世帯がみなし仮設に入居されていました。地震発生から、10か月経ち、ある程度生活も落ち着いてきたところですが、9月の豪雨で自宅を失った世帯もありました。メンタル面の不安定さが見受けられ、さみしい、家族以外は誰とも話すことがない、やっとつらい気持ちが言えるようになったなど言葉を聞くことができました。

能登半島から金沢までは100km以上離れています。土地勘がなく、知り合いもない、世帯によっては車がなく公共交通機関でしか移動ができない状況で孤立感が募っている方、また、能登半島の復旧が思うようにすすまないことに苛立ちを口にされる方もいらっしゃいました。

熊本地震の時の思い出しながら、被災された方の様々な思いを受け止める訪問をしました。



訪問活動の様子

同じ期間に参加された方の職業は様々で、社協職員、ケアマネージャー、サービス管理責任者、独立型社会福祉士、障がい者福祉、不登校児支援、病院職員、議員など幅広い分野で活動されている方と過ごしました。被災された方からの仕事の相談も多く、住職の社会福祉士の方が対応されていました。

同じ資格を持っていても、幅広い分野で活動しているところが、社会福祉士の面白く、良いところだなと実感しました。

輪島塗の職人さんからは、避難先でも漆器づくりを継続され、全国各地へ実演販売に出かけていると聞きました。復興に向けて歩みだされている方々にお会いして、より一層熊本の地からでも応援したいと思いました。



濱さん(左から2番目)と緒方事務局長(左から3番目)

新しい社会福祉士の皆さんの活躍を期待

新規合格者の集い 開催

会員サービス委員長 田中 智也

11月30日にシアーズホーム夢ホールで新規合格者の集いを開催し、今年度は13名の方が参加されました。今回の新規合格者の集いを通して、熊本県社会福祉士会の研修や委員会活動、ブロック活動に少しでも興味を持っていただき、今後会の活動や研修に参加していきたいと思う方が少しでも増えると嬉しいなと思います。



社会福祉士会の概要説明の様子

研修の内容としては、最初に梅田会長よりご挨拶をいただき、私から熊本県社会福祉士会の概要について、研修委員会の綾香委員長より生涯研修制度についての説明を行っていただきました。

その後「仕事での困りごとについて」というテーマでグループワークをKJ法を用いて行いました。皆さん積極的に意見を出されており、日頃の仕事の困りごとや職場で感じるジレンマなどを発散・共有し、終了後は皆さんスッキリした顔をした方が多かったように感じます。



グループワークの様子

最後に、高江副会長からまとめとして、会の活動や交流会に参加することでつながりを広げていくことができること。そしてその大切さなどについてお話していただきました。

研修後は名刺交換や雑談をされている方も多くいらっしゃり、交流会にもたくさんの方に参加いただき、新たなつながりや関係性を築く機会になったのではと感じています。



参加者との集合写真

スーパービジョンを身近に体験

熊本市東・上益城ブロック研修 開催

上益城ブロック長 増田 史弥



講師の九州ルーテル学院大学 西 章男さん

研修では、ペアワークやグループワークだけではなく、コロナ禍に大きく活用され始めたGoogleフォームを活用し、「私たちの倫理綱領」を作成するなど研修手法についても学びの多い研修でした。あっという間の3時間で、テーマの通り参加者の皆様に元気になって帰っていただけたのではないかと思います。

また、研修会終了後の情報交換会では、久々にお酒を酌み交わしながらネットワークづくりを行うこともできました。コロナ禍以来のブロック研修会の開催ということで、久々の再会を喜ぶ参加者の皆様の姿が印象的でした。

これからもブロック会員の皆様に「学び」や「つながり」を提供していくことのできる研修を企画していくことができると感じました。研修にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

9月28日、九州ルーテル学院大学で『あなたにとって身近なスーパービジョン～元気が出る研修会-0次会編-』というテーマで、熊本市東・上益城ブロック合同で研修会を開催しました。

講師には、九州ルーテル学院大学 西 章男さんをお招きし、スーパービジョンについて、ソーシャルワーカーにとって大切な『価値』などを織り交ぜながらお話しいただきました。



研修での講話の様子



研修でのペアワークやグループワークの様子

物事を正しく理解し行動することを学ぶ ハンセン病療養所の将来と未来につなぐ講演会

りんどう相談支援センター 野尻 裕史



菊鹿中学校の発表の様子

11月16日、山鹿市民交流センターにおいて「ハンセン病療養所の将来と未来につなぐ講演会」を開催しました。当日は山鹿市立菊鹿中学校生徒会・チーム菊鹿中学校による学習発表、国立ハンセン病療養所「長島愛生園(岡山県)」歴史資料館の田村朋久氏(学芸課長)による同館の活動紹介、中修一氏(ハンセン病回復者・ハンセン病療養所退所者の会「ひまわりの会」会長)と田村朋久氏によるトークセッションを行いました。

初めに菊鹿中学校生徒会は同校で約20年に渡って取り組んでいるハンセン病問題の学習内容を発表しました。壇上に立つ生徒らは「物事を正しく理解し行動することは私たちの日常生活にも求められている。皆が安心して、心から笑いあえる学校をつくっていきたい。」と力強く発表しました。この取り組みの一部は熊本日日新聞社の朝刊「学びの軌跡(2024年11月10、12、13日付)」で連載されています。

長島愛生園歴史館の田村朋久氏は「長島愛生園は“ダークツーリズム”という観点を取り入れ、全国のハンセン病療養所の中で最も多く見学者を受け入れている。」と述べ、療養所入所者の追体験を目的としたクルージングツアーや同園を中心とした「世界遺産」登録活動を紹介し、無関心層を取り込む工夫と実践などを語りました。

最後に「ひまわりの会」の中修一氏は自らの体験談などを語り、参加者70名はそれぞれの取り組みを振り返り、将来を考える機会となりました。

りんどう相談支援センターでは今後も講演会の開催などを計画しています。熊本県社会福祉士会の会員の皆様におかれましても、一人でも多くの方々に参加して下さいますと幸いです。



トークセッションの様子

現場エピソードを交えた熱い講義が好評 2024年度 社会福祉士 受験対策講座・模擬試験



講義の様子

9月1日～10月6日の間で、社会福祉士の資格を目指す社会人や学生の方を対象に、5日間の受験対策講座を開催し、22名の受講がありました。この講座・模試が、本試験に向けての準備とイメージを整えるきっかけとなれば幸いです。

今年度の受験対策講座の特徴は、新カリキュラムでの出題となる令和7年2月2日に実施される第37回社会福祉士国家試験に対応できるように理事を含め委員皆でどのように実施したら良いかを時間をかけて協議し、講座内容を従来のテキストベースから変更し、模擬問題を中心に講義をする形に変更しました。

各専門分野の講師からアドバイスを受ける機会が少ない社会人の受講者にとっては、この時期の講座はチャンスでもあり、熱心にメモを取る姿も見られました。

講師には、社会福祉士会員はもちろんのこと、福祉・医療の専門職や大学教員の方々を迎えて、試験問題を解く際のコツや、現場でのエピソードを交えた熱のこもった講義が行われました。

休憩時間には、受講者同士で受験勉強の悩みやお互いの勉強方法を話し合う場面も見られました。



主催者挨拶する梅田会長

また、講座終了後の10月20日には、全国統一模擬試験を開催し、39名の受験申込がありました。模擬試験には講座受講者の方も多く申し込まれており、受験対策講座で学習した成果を活かすことができたのではないかと思います。

講座内容 (第37回国家試験・新カリキュラム) (参考) 受験対策講座 実施要領より

共通科目		専門科目
1.医学概論	8.障害者福祉	1.高齢者福祉
2.心理学理論と心理的支援	9.刑事司法と福祉	2.児童・家庭福祉
3.社会学と社会システム	10.ソーシャルワークの基盤と専門職	3.貧困に対する支援
4.社会福祉の原理と政策	11.ソーシャルワークの理論と方法	4.保健医療と福祉
5.社会保障	12.社会福祉調査の基礎	5.ソーシャルワークの基盤と専門職
6.権利擁護を支える法制度		6.ソーシャルワークの理論と方法
7.地域福祉と包括的支援体制		7.福祉サービスの組織と経営

ソーシャルワークを基盤とした災害支援を発信 ぼうさいこくたい2024 ポスター展示

災害時支援委員長 遠山 健吾



会場の花畑広場付近の様子(写真提供:AAR Japan)

10月19日、20日の両日、日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい2024 in 熊本」が熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場を会場に講義型セッションや体験型ワークショップ、ブースでのプレゼンテーション、屋外展示等の形式で開催され、来場者は17,000名以上を数え過去最高でした。

今回は9回目の開催で九州では初開催でした。熊本開催の意義は「災害を教訓とした防災の取組、創造的復興の取組を熊本から全国に発信することによって、被災地に希望の灯火を繋ぎ、国民の防災意識の向上を図る機会にしたい」でした。

熊本県社会福祉士会はブースでのプレゼンテーション(ポスター展示)に出展し、～ソーシャルワークを基盤とした災害支援～をテーマに、熊本地震及び令和2年7月豪雨災害での支援活動や平常時の取組(災害シミュレーション会議、災害支援活動者養成研修、かたりば)を紹介しました。2日間を通じて、年代問わず多数の来場者が足を止められ、社会福祉士会の災害への取組を周知、啓発することができました。また、「ソーシャルワークとは何ですか？」等の質問もあり、丁寧に説明させて頂きました。

災害を教訓とした防災の取組を熊本から発信することにほんの少しは貢献できたのではないかと思います。



ポスター展示のあった熊本城ホール



熊本県社会福祉士会ポスター展示の様子

information

子ども家庭支援委員会 1月度研修のご案内



【日時】2025年1月11日(土)13:30~15:30 【開催方法】ZOOMでのオンライン研修

【演題】『LGBTQ+子どもユースを取り巻く課題と支援(仮)』

【講師】吉村 千恵氏(尚絅大学短期大学部総合生活学科講師) 【参加費】会員無料、非会員1000円

【内容】性の違和感を抱える子どもたちをはじめ、LGBTQ+の児童生徒が直面する課題について理解を深めます。また、性の多様性を尊重しながら、彼らを支える具体的な支援方法について学びます。

災害時支援委員会 「かたりば2024」 開催のご案内

熊本、愛媛、広島3県社会福祉士会共同開催

【日時】2025年2月15日(土)13:00~15:30 【開催方法】ZOOMを使ったオンライン

【対象】災害支援を行ったことのある社会福祉士会会員 【参加費】無料

(後方支援、災害支援に興味のある方も是非ご参加ください。)

【内容】①講師(かたりば)からのお話:能登半島災害支援について 熊本、愛媛、広島の各かたりばより

※熊本の講師(かたりば)は、石川県社会福祉士会の山形優子様になります。

②グループワーク 災害支援を振り返って、自由に気持ちや思いを吐露する。

みんなで災害支援について苦労、ゆらぎ、葛藤等を語り合い、気持ちを共有しましょう。



相談委員会 高齢者施設に所属する社会福祉士向けの研修 開催のご案内

【日時】2025年3月8日(土)14:00~16:00 【会場】熊本市中央区(調整中)

【演題】『支援者の支援(仮)』【講師】西 章男 氏(九州ルーテル学院大学 人文学部 心理臨床学科 准教授)

【対象】高齢者施設に所属する社会福祉士、社会福祉を学ぶ学生

【内容】日々頑張っている自分自身を労い、社会福祉士として大切にしている価値や倫理について語り合います。

【参加費】会員・学生無料、非会員1000円 ※18:00ごろから懇親会を予定しております。



熊本県社会福祉士会 臨時社員総会

【予定日時】2025年3月22日(土) 午後

【開催予定場所】ホテルメルパルク熊本

【セミナーの内容】未定

成年後見委員会 全体会議のご案内

【日時】2025年3月29日(土)午後(予備日3月15日)

【開催方法】集合メインのハイブリッド(会場未定)

【必須研修内容】法的な課題について検討中

※いずれの研修も、準備ができ次第、**熊本県社会福祉士会の ホームページにて詳細案内と申込み受付をします。**お気軽にご参加ください。

熊本県社会福祉士会ホームページアドレス <http://kumacsw.com> 「ホーム」→「研修・講演」



つなやき

最近、居酒屋に行くと、スマートフォンで席からメニューを注文するスタイルが増えています。このようなシステムが日常化する中で、私たちは徐々に慣れてきました。しかし、「スマホがないと飲み物すら頼めない」という声も聞かれ、少し寂しさを感じることもあります。

ここ熊本では、TSMCの進出やインバウンド需要の増加により、多様な文化が交錯するようになりました。経済の活性化は喜ばしい一方で、生活環境の変化に伴う課題も顕在化しています。渋滞やホテルの予約困難といった問題だけでなく、支援のあり方も大きく変わってきています。

従来は、「障害を抱える人を障害のない人が支援する」という図式が一般的でした。しかし、生きづらさを感じる要因は、テクノロジーの急速な発展や、国際的な文化や言語の違いなど、多岐にわたっています。支援の対象は拡大する一方、支援のあり方も変化が求められています。支援する側と支援される側の関係性が変化し、支援していた人が高齢になり介護を受ける立場になることも少なくありません。

多様化する生きづらさに対して、私たちはどのように支援していくべきでしょうか。先日のソーシャルワーカーデーで大学生たちと話す機会がありました。

彼らの若さ、柔軟性、そして社会に対する熱意に感銘を受けました。これからの社会は、テクノロジーと共に急速に変化し続けるでしょう。人生100年時代と言われる現代において、テクノロジーの恩恵を受けられない人々への支援は、ますます重要になってきています。

職場では特定技能実習生の方々が、日々献身的に働いてくださっています。特に介護業界では、彼らなしでは現場が回らない状況になっています。多文化共生が進む社会において、テクノロジーの急速な発展により、私たちの生活環境は大きく変化していくでしょう。外国人と生活するのが当たり前になり、環境の変化に対応する力が求められる時代。テクノロジーの進歩についていけない人を支援する新たなソーシャルアクションが必要になるかもしれません。

どんな未来が待っているのでしょうか。ワクワクと少しの不安が入り混じった気持ちで、その時を迎えるのが楽しみです。とりあえず、今できることをしっかり頑張ります。そして、社会福祉士会が時代に対応できるよう、若い会員が増えることを期待しています。

(広報委員会 魚谷)